

JOMF 派遣医師便り (2014. 5)

◆ジャカルタ◆

額を割りました

JJC 医療相談室

原 稔

先日、右のまゆ毛のところをパッキリと切っけてしまい、自身が病院を受診することになりました。

土曜日の夕方、JJC ラグビー部の練習に参加。ほとんど終了間際の出来事です。コンタクトなしのボールゲーム中、ボールをキャッチしようとして、味方のプレーヤーと互いに顔面をぶつけてしまいました。自分は右のまゆ毛の部分。相手は左のまゆ毛の直ぐ下。ほぼ対称の位置です。双方ともに5センチほどの裂創を負いました（私の方が傷は深く、相方は「勝ったな」と）。どちらも縫合が必要です。自分で縫うわけにもいかず、知り合いの医者

に連絡を試みるもつながらないので、二人一緒に最寄りの病院を受診しました。向かったのは、Pondok Indah 病院の救急外来。付き添いでは何度も訪れていますが、自分が受診するのは初めてです。受付の前で、傷を指さすと直ぐに診察室へ案内されました。土曜の夜にしてはあまり混んでいません。

書類に記入し、待つことしばし。縫合処置の同意書にサインをしたのち、順番に縫ってもらいました。二人揃って10針ずつ。並んで記念撮影後、会計を済まし、薬をもらって終わりです。

日本での処置と基本的な違いはありません。日本人患者の扱いに慣れている印象を受けました。

さて、今回は運よく(?)単純な裂創で、比較的待ち時間も短く済みましたが、そうはいかない場合もあります。寧ろ長く待たされることの方が多いと思います。

レントゲンやCTなどの画像診断が必要な場合はかなり待たされます。まず、検査を受けるまでに待たされた後、結果が出るまでにまた長時間待たされます。日本だと救急外来の担当医自身がレントゲンやCTを見てある程度の判断を下しますが、こちらでは放射線科専門医の読影結果を待つことが多いようです。このレポートがあがってくるまでの時間が長いのです。

更にその後、専門医(例えば、骨折であれば整形外科専門医)に診てもらう必要があれば、その医者を呼ぶのに時間を要します。院内に居ないこともよくあります。1人の医者が最大3つの施設を掛け持ちしているので仕方ありません。これはインドネシアの制度によるものです。

その後、入院が必要になると、手続きや部屋の準備でまたもや待たされます。ベッドが確保できない場合は他の病院をあたねばなりません。

待たされることばかり示して、解決策を提示できないのが心苦しい限りです。しかし、待つことを予期し、その理屈が分かれば、イライラする度合いが少し違うと思います。また、救急外来で周りにはいるインドネシア人も皆待っている点は留意すべきでしょう。